



規範意識を育むための子どもへの関わり方

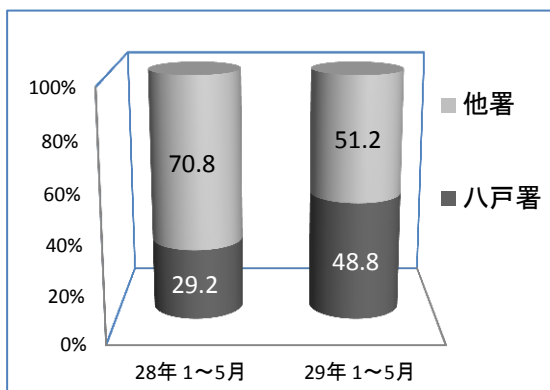
右のグラフは、万引きにより補導された少年数（県全体と八戸警察署管内との比較）を表したものです。本年1～5月期間の発生件数の割合は昨年同時期に比べて増えており、その割合は県全体の約半数を占める大変憂慮すべき状況にあります。

万引きをはじめ少年非行防止のためには、規範意識の高揚が重要です。家庭では、規範意識を育むための子どもへの関わり方が重要になってきます。

きまりを守ることが苦手な子どもの中には、「きまりはわかっているが守れない」「きまり自体がわからない」という子どもがいます。

そのような子どもへは、「だめ。いけません。」とただ禁止するだけでなく、「ほしいものが店にあった時には、お金を払って買うのがルールです。」というように、状況によって、何をすべきかということを肯定的に伝えていくことが大切です。「きまりを無視してしまう」子どももいます。そのような子どもの多くは、「親の気を引きたい」「学校や家庭への不満」「友達関係による不安や不満」等、自分の欲求とは全く関係ない理由から精神的に不安定になり、問題行動をとってしまうことがあります。

精神的に不安定な状態では、規範意識を高めるための言葉は、受け入れることが困難になります。日頃から大人が子どもに「世界に一人だけしかいないかけがえのない存在」であることを伝え、できたことを認めてほめることで、安心感や自尊感情を高めることが大切です。また、子どもから「したいこと・したくないこと・してほしいこと・してほしくないこと」をしっかりと聞き、子どもの苦手や特性を理解した上で、支えていく姿勢が重要です。



子どもたちの笑顔のために

スクールソーシャルワーカー (SSW) がサポートします。

子どもの教育やしつけ、家庭内での関係で困ったり、悩んだり、不安に思ったりすることはありませんか？スクールソーシャルワーカーは相談員として、悩みや心配事をお聴きし、様々な人たちとのネットワークを築きながら一緒に考えていく、相談と支援の専門家です。

八戸市教育委員会では、今年4月から、市内の小・中学校にスクールソーシャルワーカーを派遣し、学校や家庭での悩みや心配事を抱えている子どもや保護者をサポートしています。一人で悩まずに、スクールソーシャルワーカーにご相談ください。



見えないものの大切さ



八戸市教育委員会 教育長 伊藤博章

【随想】

◇久しぶりの休日だった。隣接する小学校のグラウンドからは、朝から野球に興じる子どもたちの元気な声が響いてくる。窓越しに見れば、見慣れないユニフォーム姿も大勢集まっている。他校との練習試合らしい。陽光を浴びながら懸命に白球を追いかけている。

◇それからまもなく玄関のインターホンが鳴った。受話器を手に対応している家人の声が聞こえた。数分して再びチャイム…。弾むような家人の対応ぶりに、どんな用件だったのか尋ねると、ボールが家の敷地に入り、探してもいいか了解を得るためとのこと。その後、すぐに見つかり、選手の母親とおぼしき人は、H小学校の誰々と名前まで名乗りお礼を言って帰ったという。『気持ちいいね、こんなに礼儀正しい人久しぶり～』と、しきりに感心していた。勝ちさえすればいいと熱くなりがちな大会等にあって、なぜ、この母親がボール1個のために嫌な役目を引き受けたのか。監督やコーチ、保護者会の行き届いた指導の賜と感じた。こうした見えないところでの親の姿こそ、子どもたちを確実に成長させる。

たかがボールされどボール……。

◇ボールで思い出した。数年前、長年勤務した中学校の同窓会に招かれた。まさに社会でも家庭でも大黒柱として活躍しているかつての生徒たち、年齢を重ね容姿の変容はあるものの、顔立ちや目の輝きは当時のままである。宴もたけなわのころ、男子生徒から、かつてソフトボールで隣家のガラスを割った時の話が出た。懐かしかった。あの日の熱気あふれる空気感を、今でも鮮やかに思い起こすことができる。3年生ともなれば、攻めるも守るも皆本気である。白熱した攻防が続いていたそのとき、快音と共にサード寄りに大きな弧を描いて白球が飛んでいった。ガラスの割れる音、にぎやかな歓声も一瞬凍りついた。私はすぐに隣家に走り、後ろから何人かの生徒たちもついてきた。玄関に出てきた家人に事情を説明しお詫びをした。割れたガラスが浴室に散乱していた。片付けさせてください、と申し出たが、怪我をしてはいけけないのでガラス屋さんをお願いしますから、と温かい言葉かけをしてくれ、ホームランボールを手渡してくれた。かつてのホームラン王は、あの時、先生と一緒に行ってかれて俺助かったよ、と言った。周囲の仲間たちからドツと笑いがおきた。

◇子どもたちは、学校という雑多な集団生活の中でさまざまな体験を通し、これからの人生で遭遇するであろう幾多の壁を乗り越える力とともに、他の人を思いやる心や、おかげさまでという感謝の心を学んでいく。目に見える結果を重んずる大人社会の風潮の中にあって、今も昔も、見えないものの本当の大切さを1個の白球が教えてくれた。